

令和4年度かわさき教師塾

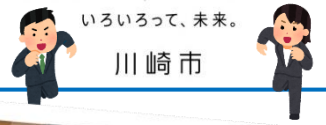
☆『明日の先生日記』☆



Colors, Future!

いろいろって、未来。

川崎市

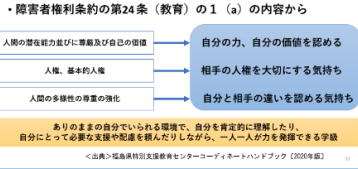


1月21日(土) 特別な配慮を要する子どもへの支援に関する講義、一人ひとりのニーズに応じた指導・支援に関する演習が行われ、個に応じた支援についての理解を深めました。

令和5年1月21日(土) 日程

- 10:00 特別支援教育
- 11:00 日本語指導が必要な子どもたちの教育
- 12:00 ~昼食・休憩~
- 13:00 個に応じた支援(グループ協議)
- 14:20 全体指導助言
- 14:45 振り返り・事務連絡 15:00 終了

「お互いを認め合える」学級とは



「自分で誰かの靴を履いてみること」他人の立場に立って向き合っていく

共感する力

障害名などの情報に当てはめて考えず、一人ひとりの児童生徒をよく見て、「どういった場面でその行動が表れるのか」などを観察し、それに応じた支援を考えていくことの大切さを学びました。



説明 GW 共有 GW 助言 WS 感想

「氷山の一角」



多文化共生社会に向けて「違って当たり前」「分からなくても大丈夫」という姿勢を教師自らがお手本になるよう理解し、示していきたい。

午後は事例をもとにその子に応じた指導・支援を考えるグループ活動でしたが、途中からその指導が学級経営において、全ての児童に必要なアクションだと気がきました。

特性からくる困難さをとらえる視点

外国につながるある児童生徒の温かな受け入れ

「外国人だから」「常識ないなー」 ↔ 「ちがってあたりまえ」「わからなくても大丈夫」

偏見・差別の心 ↔ 多様な価値観の社会

→受けとめる学校・地域・支えがある社会

→私たちの多様性が問われている

子ども「は」育つものと考え「信じ、待ち、許す」



まず支援を必要としている児童に教師が気付く必要があると感じた。担任になった際には、児童一人ひとりに目を配りその児童に合った支援を考え、実行していきたい。

Colors, Future!

いろいろって、未来。

多様性は、あたたかさ。多様性は、可能性。

川崎は、1色ではありません。

あかるく。あざやかに。重なり合う。

クラスの中にいる支援を必要としている児童生徒だけでなく、周りの児童生徒への指導やクラスの雰囲気づくりの大切さについて考えを深めることができました。

教師の見方一つで、児童の姿が大きく変わることを学びました。表面的な事実だけでなく、背景や要因を知ること、深く関わるのが大切であると感じた。



私も良い言葉だと感じた

自尊心を高めながら、困難に対する方法を身に付けていく

困ったときは、ちゃんとウロウロしましょう。

大丈夫! 川崎の先生たちは力になってくれます!



本日の17時~19時、かわさき宙と緑の科学館において「教員志望者向け説明会」(教職員人事課主催)が実施されました。受講生の参加希望も多かったようです。教職への道筋のイメージや意欲の一助になればと思います。